

易道家

名人

〔十訓抄〕權漏刻博士季親といふもの有けり。周易博士にて、其道よにおぼえありけれど、風月の方ことなる聞えなかりけり。或文亭の聯句の座に望みたりけるに、沈淪去たりけるを、其中に宗との儒者有けるが、是をあなづりたりけるに、や閉口後來客と上句を云たりければ、季親、舍陰先達儒とぞ付たりけるに、がりて云事なかりけり、

〔諸家家業記〕下筮之事、伏原家に而、累代被取扱候、彼家は、明經道之儒に而易道にも被達候、事故其筋能被相心得候事に候、毎年諸家より、年筮之頼、冬至之日卜筮有之、其考を被贈候事など有之候由、

〔二 中歴十三能〕易筮

一行禪師 珍曇和尚 弘法法師 貞觀僧都 巨見修理權大夫 善家相公 日藏善家弟 仁海僧正 成尊僧都 善

範都僧 淨藏善家八男 攝安 仁祚 忠允 彦祚 文贊彦祚子 扶尊文贊子西山公 尋實懷尊子 惠海尊扶

子弟 日覺同 善相公 善文江 善茂明 善雅頼 善爲長 善爲康

説云、善相公傳于二家舍弟日藏者醍醐説也、一男文江者菅家説也、

〔秦山集 甲乙錄四〕垂加翁妙達於易、自言吾得太占之傳、易乃明矣、

〔譚海十二〕實曆の頃平澤左内と云人有易に通じたる事妙を得て、物をおほひ、うらなはするに、其内の物をさして中る事神の如し、林大學頭殿へも度々謁して、林家より天府の像を給はりて安置せし也、

〔當世武野俗談〕平澤左内

平澤左内と云卜者あり、其以前は柳原和泉殿橋向新道通りに、かすかなるくらして、辻などへ出て、手の筋を見、かたぐ、其日細き烟りを立たるが、享保元文の頃より不計はやり出して、今占の一流平澤流と云は、片腹いたきいやきな奴なり、扱文旨千萬の匹夫なり、略中或時去る